

細川涼一／著

# 中世寺院の風景

## 中世の

人々にとって生活の中心だった寺院に関する資料を分析することによって、中世の人々が何を願い、

どのように生き、死んでいったのかを明らかにしようと/orする書です。

近畿の寺院を中心に叙述。滋賀県米原町の番場蓮華寺の章では、元弘3年(1333)、後醍醐天皇方の足利尊氏らの攻撃を受けて京都から落ちた北条仲時ら六波羅探題の430人がなぜ同寺を集団自決の場所に選んだか、その理由を開山の聖・一向俊聖の思想と一向宗の性格を考察することで明らかにしています。

小野小町伝説の章では、謡曲「通小町」をもとに、小野隋心院(京都市山科区)などで小野小町が流寓したとする伝説を伝承してきた主体が、中世賤民であったと想定しています。(新曜社、四六判上製、275頁、本体2500円)

